

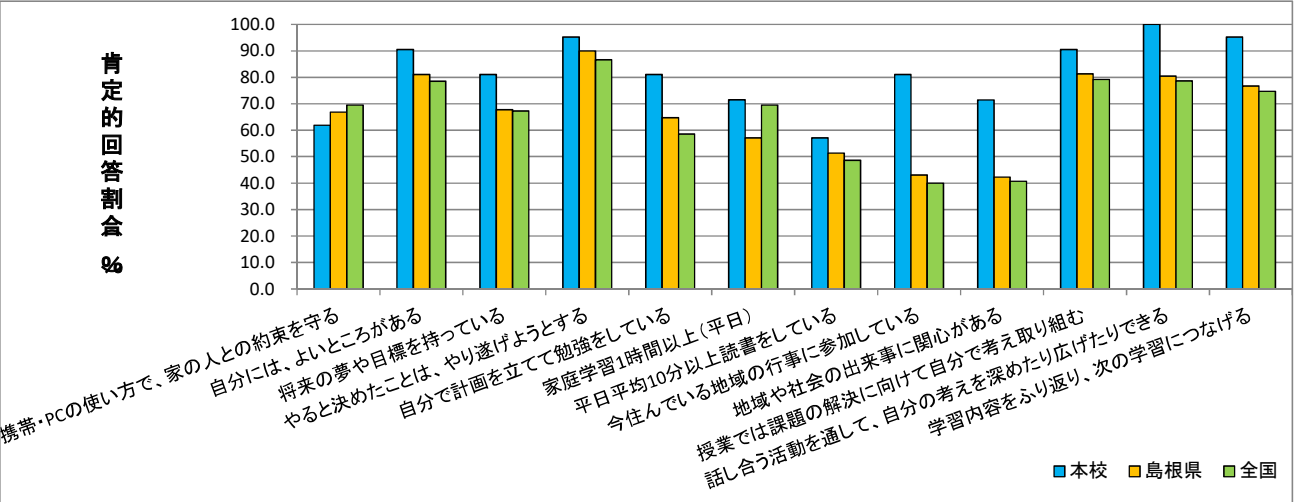
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○ほとんどの問題で正答率が高い。特に、授業で何度も取り上げた表現技法については、全国・県の平均を大きく上回る正答率であった。 ●論理の展開を押さえる問題と、目的に応じて助動詞を使う問題が、全国・県の平均を下回っている。	・構成を意識しながら文章を読む機会を増やす。 ・文法や語彙について学習する時間を増やす。
数学	○全ての領域の基本的な事項で正答率が高い。 ●問題文から情報や条件などを読み取ることや、正しく述べられている説明文を選ぶ問題の正答率が低い。	・問題文から読み取った情報を表現する機会を増やす。 ・自分の考えを数学的に説明する機会を増やす。(式や求めた数値を使って説明する。)
理科	○「エネルギー」、「粒子」、「生命」の領域の正答率が高い。 ○記述式の問題形式の正答率が高い。 ●「地球」の領域の正答率は低い。	・実験や観察の機会を通して、探究的に考え、表現する場面を増やす。 ・知識、技能の習得を図るとともに、科学的な考えを友達どうして高め合う機会を増やす。

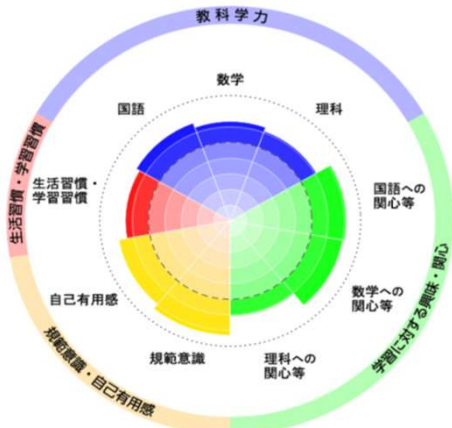
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○話し合い活動に積極的に取り組むことができ、自分の考えを伝えたり、友達の意見を参考に自分の考えを広げたりすることができる。 ●携帯・PCの使い方についてルールを決めていない、またはルールが守れていない生徒もいる。	・保護者、生徒向けのメディア教育の講習会を実施する。 ・学校便りなどでメディア機器の使い方やルールづくりについてお知らせし、家庭でのメディア機器の使い方について考えてもらうようにする。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・島中スタイルの視点を取り入れた分かりやすい授業を継続して行う。特にICTの効果的な活用方法については研修の場を持つ。
- ・校内研究部アンケート、学校評価を基に、学年部ごとに課題を見つけ、その改善を図る取組を計画する。
- ・身に付けさせたい力について教職員で共通理解を図り、グループでのコミュニケーションスキルの指導を継続し、充実させる。

【受検者数】

21 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。